

学校教育目標

たくましく未来を拓く 児童の育成
～考える つながる やってみる～

研究主題

“なぜ”にこだわり、主体的に問題を解決しようとする児童の育成
～理科教育を中心とした対話を通して理解を深める授業づくり～

研究仮説

比較させたり、ズレを感じさせたりする課題提示や、単元構成と授業展開の工夫を行うことにより、自ら課題を見出し、主体的に課題解決できる児童を育成することができるだろう。

児童の実態

- 言われたことには粘り強く取り組むことができるが、自ら考えて行動する様子はあまり見られない。
- 物事にこだわり、より深く考えようとすることに課題がある。

目指す子供の姿

- 深く考える子
→問題解決の過程を分かっており、既有知識と比べながら自ら疑問をもち、問題を自分事として考えることができる。
- 仲間とつながる子
→友達の考えを受け入れたり、分からないことを大切に教えてあったりしながら、課題解決に向かって支え合い協力して、妥当な結果を得ることができる。
- 何事にも挑戦する子
→問題解決の見通しを持って観察実験に取り組み、問題解決の過程を振り返りながら、最後まであきらめずに解決することができる。

自ら課題を見出し、主体的に課題解決できる授業づくり

○協調学習 単元構成と授業展開の工夫

- ・知識構成型ジグソー法による授業を展開することにより、児童が対話を通して主体的に課題解決する力をつける。
- ・単元の中で知識構成型ジグソー法を効果的に取り入れることで、単元を通した学びの深まりを実現させる。

一人3回の協調学習実践
メーリングリストの活用

○課題との出会わせ方 導入の工夫

- ・単元の導入や本時の導入の場面で、「比較させる」「ズレを感じさせる」等の工夫を行うことで、児童の主体的に学ぶ力を引き起こす。

「学びの変革」授業参観シートの活用

令和7年度 戸河内小学校 研究構想図

●私たち（教師の目指す姿）〈授業づくりの姿〉

理科教育についての理論構築

理科の思考過程を基盤とした授業づくり

理科の見方・考え方

見取りにつなげる

⇒5月21日以降に、戸河内小教職員で、「理科の授業づくりの際の落とせないポイント」「理科授業の気を付けてたいこと」「こんな授業をしたい！」などを交流

●研究の振り返りの視点

一人3回の協調学習実践

メーリングリストの活用

「学びの変革」授業参観シートの活用

児童アンケート